

斎藤秀三郎著『英文法初歩』について(2)

A Study on Saito's "English Grammar for Beginners." (2)

北山長貴

Nagaki Kitayama

キーワード：斎藤秀三郎、英文法、英語教育、文法用語

This article will analyze the grammatical terms which are employed in *English Grammar for Beginners* written by Hidesaburo Saito in 1900. Since this grammar textbook was published more than 110 years ago, some grammatical terms are not identical with present grammatical terms. Also, in his textbook, some grammatical terms are not translated into Japanese and other terms are paraphrased or explained in Japanese. Through a close study of those grammatical terms I would like to clarify how the grammatical terms he employed and translated are still affecting Japanese English grammar textbooks and other English teaching materials today.

はじめに

北山(2010)では斎藤秀三郎著『英文法初歩』の解題の方向を提示した。本稿では斎藤が使用した文法用語とその意味について分析を行う。そのために、目次、SUMMARY、本文から『英文法初歩』の構成内容を概観し使用されている文法用語について以下の三点から斎藤が使用した文法用語を検証する。

1. 目次に見られる文法用語
2. SUMMARYに見られる文法用語
3. テキストの本文に見られる文法用語

1 目次

『英文法初歩』の本文は日本語で書かれているが、目次は英語である。以下に和訳した目次を提示する¹⁾。そしてそれぞれの文法項目で扱われている文法用語を考察する。

表1) 目次の訳

| |
|--|
| 1章 文と品詞 |
| (1) 語と文 (2) 主語と述語 (3) 語の種類 (4) 文の種類 (5) 文の分析 |
| 2章 名詞 |
| (1) 名詞の種類：固有名詞、普通名詞、集合名詞、物質名詞、抽象名詞 |
| (2) 名詞の文法的形式：数、格、性 |
| 3章 代名詞 |
| (1) 人称代名詞 (2) 指示代名詞 (3) 疑問代名詞 (4) 関係代名詞 |
| 4章 形容詞 |
| (1) 形容詞の種類：記述形容詞、数量を表す形容詞、代名詞的形容詞 (2) 比較変化 |

5章 動詞

- (1) 動詞の種類：自動詞と他動詞、助動詞と動詞、定形動詞と非定形動詞
 (2) 動詞の文法的形式：人称と数、態、時制、法、不規則動詞

6章 副詞

- (1) 副詞の種類 (2) 副詞の意味：時の副詞、程度の副詞、様態の副詞
 (3) 副詞の比較変化

7章 前置詞：前置詞の意味；

- (1) 時を表す前置詞 (2) 場所を表す前置詞

8章 接続詞：

- (1) 等位接続詞 (2) 従属接続詞

1. 1 文と品詞

目次には (1) Words and Sentences (語と文) とある。Words を「単語」、Sentences を「文」と斎藤は訳している (p. 1)。そして、語を綴り文を作り、その語と語の結合方法を文法と説明している。文字は Letters of the Alphabet (アルファベット) であるが、「a, b, c 26文字」(p. 1) と説明していてその訳語はない。Grammar は「文法」(p. 2) と訳している。

(2) Subject and Predicate (主語と述語) では Subject を「主格」、Predicate を「賓辞」と訳している (p. 3)。現在の学校文法では「主語」「述語」である。

(3) Kinds of Words (語の種類) では語がその用法によって八種類あるとしている。これを Eight Parts of Speech 「八品詞」(p. 20) と訳している。具体的には、(I.) Noun 「名詞」(p. 5)、(II.) Pronoun 「代名詞」(p. 8)、(III.) Verb (動詞) は「働詞」(p. 10) と記述、(IV.) Adjective 「形容詞」(p. 11)、(V.) Adverb 「副詞」(p. 15)、(VI.) Preposition 「前置詞」(p. 16)、(VII.) Conjunction 「接続詞」(p. 19)、(VIII.) Interjection 「間投詞」(p. 20) であり現在とその分類、訳は同じである。

(4) Kinds of Sentences (文の種類) は四種類あると述べている。

(5) Analysis of Sentences (文の分析) を「文の分解」(p. 24) と訳し、文は通常二つの主要部の主語と述語とその Adjuncts 「附属詞」(p. 24) から構成されるとしている。

1. 2 名詞

(1) Kinds of Nouns (名詞の種類) として名詞を 5 つに分類している：Proper Nouns 「固有名詞」(p. 29)、Common Nouns 「普通名詞」(p. 32)、Collective Nouns 「集合名詞」(p. 37)、Material Nouns 「物質名詞」(p. 40)、Abstract Nouns 「抽象名詞」(p. 42)。これらの 5 つの分類とその訳は今日の文法事項と一致している。斎藤は「名詞の中で多数を占めるものは固有名詞と普通名詞」と述べている (p. 5)。

(2) Grammatical Forms of the Nouns (名詞の文法的形式) として Number 「数」(p. 47)、Case 「格」(p. 53)、Gender 「性」(p. 60) の 3 項目に分けている。この 3 つの文法事項の分類とその訳は現在と同じである²。

1. 3 代名詞

斎藤は代名詞を 4 つに分類して説明している。(1) Personal Pronouns は「人称代名詞」(p. 65)、(2) Demonstrative Pronouns (指示代名詞) は「指摘代名詞」(p. 72) と訳している。(3) Interrogative 「疑問代名詞」(p. 77)、(4) Relative Pronouns 「関係代名詞」(p. 80) は現在

と同じ名称である。また、現在の学校文法では代名詞の文法項目で each, all などの不定代名詞が入る。『英文法初歩』では4章の形容詞で扱っている (pp.102～8)³。

1. 4 形容詞

(1) Kinds of Adjectives (形容詞の種類) として形容詞を3つに分類している。

Descriptive Adjectives (記述形容詞⁴) は、その訳語はなく「性質または状態を表わすもの」(p.88) と説明している。現在の「形容詞の限定用法」に相当するものと考えられる。Adjective of Quantity (数量の形容詞) とあるが日本語訳はなく「数量および程度を表す形容詞」(p.90) と説明している。Pronominal Adjectives (代名詞的形容詞) を、斎藤は「代名形容詞」(p.102) と訳している。そして「指示代名詞、疑問代名詞、関係代名詞が形容詞のように名詞を修飾する」と述べている。現在の指示代名詞の形容詞用法、疑問形容詞、関係形容詞にあたるものと考えられる⁵。

(2) Comparison (比較変化) にはその訳語はない。また、現在では「形容詞と副詞の比較変化」といった項目で独立した文法事項として扱われるのが一般的である⁶。

1. 5 動詞

(1) Kinds of Verbs (動詞の種類) として3項目に分けている。

Transitive Verb and Intransitive Verb でそれぞれ「他働詞」「自働詞」と訳している (p.117)。

Auxiliary and Principal Verbs (助動詞と動詞) では Auxiliary Verb は「助働詞」と訳し現在と同じであるが、Principal Verb を「本働詞」と斎藤は訳している (p.122)。現在では、principal verb は「主動詞」、main verb が「本動詞」と訳される。これは、従属節の述語動詞(主動詞)と主節の述語動詞(本動詞)を区別する時に使われるものである⁷。斎藤の意味する Principal Verb は助動詞と区別する「動詞」という意味で用いられていると考える。

Verbs Finite and Not Finite (定形動詞と非定形動詞) を斎藤は「有限働詞」(p.122) と「無限働詞」(p.123) と訳している。現在はそれぞれ定形動詞、非定形動詞である。

(2) Grammatical Forms of the Verbs (動詞の文法的形式) では5項目に分けて動詞を説明している。Person and Number (人称と数) では「人称」「数」という訳語は直接には見られない。Voice についても「態」という訳語は直接にはなく「何を為す、何か為される」(p.128) と説明をしている。Tense (時制) も同様に訳語はなく「時を表す形」(p.131) と説明している。また、Mood は「法」(p.150)、そして Irregular Verbs は「不規則働詞」(p.164) で現在と同じである。

『英文法初歩』の第5章の動詞だけで46ページ (pp.125～71) を費やしている。これはテキスト全体195ページのほぼ4分の1を占める量である。現在では動詞の態、時制、法はそれぞれ独立した文法項目として扱われるのが一般的である。

1. 6 副詞・前置詞・接続詞

副詞に関して、斎藤は (1) Kinds of Adverbs (副詞の種類)、(2) Uses of Adverbs (副詞の意味)、(3) Comparison of Adverbs (副詞の比較変化) の3つの項目に分けている。そして、2項目の「副詞の意味」を3つに下位区分している。Adverbs of Time (時の副詞) (p.177) の訳はない。Adverbs of Degree は「程度の副詞」(p.178) と訳している。そして Adverbs of Quality or Manner (様態の副詞) であるが、これを「性質」「仕様」(p.179) と訳している。現在の文法項目にはこれ以外に therefore などを「原因・理由」と区分する。『英文法初歩』で斎藤は副詞を意味的に分類しているが、現在は個々の副詞(単語)についてその意味を解

説する方法が多い様である。そして、(3) Comparison of Adverbs (副詞の比較変化) については、形容詞の章でも触れているので二回目となる。

前置詞に関しては、Uses of Prepositions (前置詞の意味) の項目のみである。そして、(1) Prepositions of Time 「時」と (2) Prepositions of Place 「場所」の前置詞を説明している (p. 185)。全体で6ページのみ解説となっている⁸。

接続詞に関しては、(1) Co-ordinate Conjunction を「等位接続詞」、(2) Subordinate Conjunctions (従属接続詞) を「従位接続詞」(p. 191) と訳している。全体で5ページの分量である。

1. 7 目次の内容

以上目次の項目を概観したが、目次の記載は簡素である。また、使用されている用語の大部分は現在のものと変わらない。目次を見る限り現在の文法用語と乖離しているものはないと言える。あえて違う文法用語を挙げるならば「指摘代名詞」「有限働詞」「無限働詞」「(副詞の) 仕様」「従位接続詞」の5つであろう。また、日本語訳のない文法用語は Descriptive Adjectives、Adjective of Quantity、Comparison の3項目である。

目次の記載があまりにも簡素すぎるので目次だけから『英文法初歩』で扱われている文法用語を全て把握することはできない。各章の章末には SUMMARY というセクションがある。SUMMARY の内容と目次は必ずしも一致していないので、次に SUMMARY を目次と比較して文法用語を考察する。

2 SUMMARY

SUMMARY はセクションの「まとめ」であり各章で扱った文法用語が掲載されている。しかし、SUMMARY はすべての章にあるのではなく、第2章に二つ、そして第3章から5章に各一つの合計五つである。第1章と第6から8章には SUMMARY という項目はない。以下に4つの章の SUMMARY を目次と比較しその文法用語を検討する。

2. 1 「名詞」の目次と SUMMARY の比較

第2章には SUMMARY が2つある。一つは (1) Kinds of Nouns (名詞の種類) のセクションの終わりのページ (p. 45) である。目次と SUMMARY を比べると記載されている文法項目は同じである。SUMMARY には各項目に番号が付けられ、簡潔な説明と例語が掲載されている。

表2) 第2章 名詞の CONTENTS. と SUMMARY. の比較 (その1)

| CONTENS. | SUMMARY. |
|--------------------|---|
| Nouns. | Nouns are of five kinds: |
| (1) Kinds of Nouns | I. Proper Nouns or names of individuals; as <i>Japan, Tokyo, Hideyoshi.</i> |
| Proper Nouns | II. Common Nouns or names of classes, as <i>country, city, man.</i> |
| Common Nouns | III. Collective Nouns or names of collections; as <i>people, family, flock.</i> |
| Collective Nouns | IV. Material Nouns or names of materials, as <i>gold, water, salt.</i> |
| Material Nouns | V. Abstract Nouns or names of abstract qualities states, or actions, as |
| Abstract Nouns | <i>wisdom, happiness, life.</i> |

(2) Grammatical Forms of the Nouns (名詞の文法的形式) についても、以下の様に目次と SUMMARY の各項目は一致しているが、SUMMARY にはさらに詳しい文法用語が掲載されている。網掛けの文法用語が目次には掲載されていないものである(以下同様)。それぞれの文法用語の意味とその訳語を検討する。

表 3) 第 2 章 名詞の CONTENTS. と SUMMARY. の比較 (その 2)

| | SUMMARY. (p. 63) |
|------------------------------------|---|
| (2) Grammatical Forms of the Nouns | Nouns have three Grammatical Forms: — |
| Number | I. Number: Singular; plural |
| Case | II. Case: Nominative; Possessive; Objective. |
| Gender | III. Gender: Masculine; Feminine, Common; Neuter. |

I. Number (数) は二項目に分けて文法を解説している。Singular Number、Plural Number とありそれぞれ「単数」「複数」(p. 48) と訳している。現在の用語と同じである。

II. Case (格) は 3 項目、Nominative、Possessive、Objective がある。それぞれ「主格」(p. 53)、「所有格」(p. 55)、「目的格」(p. 57) と訳されている。現在の文法用語と同じである。

III. Gender (性) は 4 項目、Masculine、Feminine、Common、Neuter がある。それぞれ Masculine Gender 「男性」、Feminine Gender 「女性」、Common Gender 「通性」、Neuter Gender 「無性」(p. 60~ 1) と訳している。Neuter は一般には「中性」という訳語である。「無性」以外の訳は現在でも使用されている用語と同じである。

2. 2 「代名詞」の目次と SUMMARY の比較

代名詞については以下の表 4 のように目次と SUMMARY は同じである。SUMMARY には語例が記載されている。

表 4) 第 3 章 代名詞の CONTENTS. と SUMMARY. の比較

| | SUMMARY. (p. 86) |
|----------------------------|--|
| Pronouns. | Pronouns are of four kinds: — |
| (1) Personal Pronouns | I. Personal Pronouns, as — <i>I, you, he, she, it, etc.</i> |
| (2) Demonstrative Pronouns | II. Demonstrative Pronouns, as — <i>this, that, etc.</i> |
| (3) Interrogative Pronouns | III. Interrogative Pronouns ¹² — <i>who? what? which?</i> |
| (4) Relative Pronouns | IV. Relative Pronouns — <i>who, which, that, what.</i> |

2. 3 「形容詞」の目次と SUMMARY の比較

SUMMARY に記述されているように、形容詞には 3 つの種類があるとしている。形容詞の目次と SUMMARY の比較は前述してあるので¹³、本稿では SUMMARY の文法用語の訳語についてのみまとめる。

表5) 第4章 形容詞のCONTENS.とSUMMARY.の比較

| CONTENS. | SUMMARY. (p. 109) |
|--|---|
| Adjectives (1) Kinds of Adjectives Descriptive Adjectives Adjectives of Quantity Pronominal Adjectives (2) Comparison | Adjectives are of three kinds: - I. Descriptive Adjectives Adjectives of Quality; Material Adjectives; Proper Adjectives; Verbal Adjectives. II. Quantitative Adjectives Adjectives of Quantity; Adjectives of Number; Numeral Adjectives. III. Pronominal Adjectives Demonstrative Adjectives; Interrogative Adjectives; Relative Adjectives. |

(1) Kinds of Adjectives (形容詞の種類)

I. Descriptive Adjectives (記述形容詞)は4つに下位区分されている。最初の Adjectives of Quality という用語は本文では使用されておらず、「性質または状態を表す形容詞」(p. 88)と説明している。同様に Material Adjectives (物質形容詞)、Proper Adjectives (固有形容詞)、Verbal Adjectives (動詞的形容詞)も訳語はなく説明だけである (p. 89~90)¹⁴。

II. Quantitative Adjectives (数量形容詞)という用語自体が本文にはなく、本文では Adjectives of Quantity となり「数量および程度を表わす形容詞」(p. 90)と説明している。これは文法説明の各項目でタイトル的に用いられているだけで、同様に Adjectives of Number という用語も本文では使われていない。Numeral Adjectives (数形容詞)は「数詞」(p. 98)と訳している¹⁵。

III. Pronominal Adjectives (代名詞的形容詞)は3つに下位区分されている。Demonstrative Adjectives (指示形容詞)を「指示詞」(p. 102)と訳している。また、Interrogative Adjectives (疑問形容詞)、Relative Adjectives (関係形容詞)は共に訳はなく説明をしている (p. 104)。

(2) Comparison (比較級)

「比較」の項目は目次にはあるがSUMMARYにはない。

2. 4 「動詞」の目次とSUMMARYの比較

動詞については目次にある (2) Grammatical Forms of the Verbs (動詞の活用と変化) についてのみSUMMARYがある。以下にまとめる。

表6) 第5章 動詞⁹のCONTENS.とSUMMARY.の比較

| |
|---|
| CONTENS. |
| (2) Grammatical Forms of the Verbs: Person and Number Voice Tense Mood Irregular Verbs |
| SUMMARY. (p. 162) |
| Grammatical Forms of the Verb. I. Person and Number: Three Persons, Two Numbers. II. Voice (Transitive Verbs.): Active, Passive. III. Tense: Present: Indefinite, Perfect, Progressive, Progressive Perfect. Past: Indefinite, Perfect, Progressive, Progressive Perfect. Future: Indefinite, Perfect, Progressive, Progressive, Perfect. IV. Mood: Finite: Indicative, Subjunctive, Conditional, Potential, Imperative. Non Finite: Infinitive, Participle, Gerund. |

I. Person and Number (人称と数) は、Three Persons を「3つの人称」そして Two Numbers を「2つの数」と訳し、第1人称から第3人称の説明と単数と複数の説明をしている (p. 125)。

II. Voice (態) では、他動詞の働きとして Active (Active Voice) を「授働態」(p. 128)、そして Passive (Passive Voice) を「被働態」(p. 129) と訳している。それぞれ現在の「能動態」「受動態」である。

III. Tense (時制) は三に分けている。Present 「現在」、Past 「過去」、Future 「未来」と訳している (p. 131)。現在の分類と同じである。

Indefinite Form (不定形) を「普通の形」(p. 141) と斎藤は説明している。これは不定時制 (Indefinite Tense) の意味と考えられる。つまり、進行形などが明確に一定の時を表わしているのに対して「普通」としているのであろう。¹⁷

Perfect Tense (完了形) を「動作完了の形」(p. 136) と訳し、その他の Present / Past / Future Perfect Tense はそれぞれ「現在完了・過去完了・未来完了」と訳し現在の今の用語と同じである。

Progressive Form は「進行法」(p. 141) と訳している。そして、Progressive Present / Past / Future Perfect をそれぞれ、「進行法の現在完了」「進行法の過去完了」「進行法の未来完了」(p. 134~4) と訳している。今日では、それぞれ「現在完了進行形」「過去完了進行形」「未来完了進行形」である。

IV. Mood (法) は、Indicative Mood を「直説法」(p. 150)、Subjunctive Mood を「附属法」(p. 151) と訳している。後者は現在の仮定法にあたる¹⁸。

Conditional Mood を「条件文」(p. 153) と訳している。これは should、would などを助動詞とする条件文帰結節の述部動詞の法を意味しているので、現在の「条件法」である。

Potential Mood を「可能法」(p. 154)¹⁹、Imperative Mood を「命令法」(p. 156) と訳している。そして、これらはすべて Finite (定形) であると述べているがその訳はない (p. 157)。

Non Finite (非定形) の、Infinitive (不定詞) を「不定法」(p. 157) と訳し、そして Participles を「分詞」(p. 158) と訳している。しかし、Gerund には訳がなく「Infinitive in -ing」(p. 161) と説明している。

また、CONTENTS. にある Irregular Verbs は SUMMARY には記載されていない。

2. 5 目次と SUMMARY に見られる文法用語

以上のように、目次にはない延べ30の文法用語が SUMMARY にある。動詞に関しての文法用語を見てみると、以下のようにその用語が現在の学校文法と違うもの、また定まっていないものがある。

- 1) 現在と違う呼び名：授働態、被働態、進行法、進行法の現在完了、進行法の過去完了、進行法の未来完了、附属法、不定法
- 2) 日本語訳がないもの：Gerund、Finite
- 3) 説明をしているもの：「動作完了の形」(完了形)

『英文法初歩』の目次と SUMMARY を比較してその内容構成と文法用語について解題した。その結果、1) 目次と SUMMARY の不一致がみられたこと、2) 使用されている文法用語に現在との違いが認められた。具体的には現在の学校文法の範疇では扱われない用語、そして日本語訳が現在と違うものがあることが解った。

しかし、SUMMARY は第1章と第6から8章にはないので全ての章の比較検討ができていない。そこで、以下に全ての章の内容構成を分析する。内容構成を記述するにあたっては特に斎藤が使用している文法用語に焦点をあてて記述したい。

3 本文の構成について

本文の内容構成の記述については、その文法項目を以下のような基準で選択する。

- 1) 本文で大文字、中央寄せ、番号がついている項目
- 2) 番号はないがコロンの区切られ説明されている項目
- 3) 上記の文法用語の解説で下位区分されている項目

以下の表では、目次と SUMMARY で扱っていない文法語彙を網掛けで表示した。

3. 1 第1章 「文と品詞」の構成

表7) Section 1 : The Sentences and the Parts of Speech.

| | |
|---|--------------|
| (1) Words and Sentences. | |
| (2) Subject and Predicate. | |
| (I.) Subject (II.) Predicate | |
| (3) Kinds of Words. | |
| (I.) Nouns (II.) Pronouns (III.) Verbs (IV.) Adjectives / The Articles | |
| (V.) Adverbs (VI.) Prepositions (VII.) Conjunctions (VIII.) Interjections | |
| (4) Kinds of Sentences. | |
| (I.) Declarative Sentence (II.) Interrogative Sentence | |
| (III.) Imperative Sentences (IV.) Exclamative Sentence | |
| (5) Analysis of Sentences. | |
| (I.) 文の主格 | (II.) 主語の修飾語 |
| (III.) 述語 (a) Object (b) Complement | (IV.) 動詞の修飾語 |

(4) Kinds of Sentences では文を叙述、疑問、命令、感嘆の4種類に分類している。その訳語は現在と変わらない。(I.) Declarative Sentence 「叙述文」(p.21) では肯定文と否定文があることを説明している。(II.) Interrogative Sentence 「疑問文」(p.21) では助動詞または疑問詞で

始まり疑問符?で終わると簡潔に説明している。(III.) Imperative Sentences「命令文」(p. 22)の訳語も現在と変わらない。(IV.) Exclamative Sentence「感嘆文」(p. 22)では、how(副詞)とwhat(形容詞)で始まり感嘆符!で終わると簡潔に説明して疑問文との違いを例文で比較解説している。また、叙述文、疑問文、感嘆文が同じ含意となる例文を提示しているのは興味深い。Exclamativeはexclamatoryが現在では一般的である。

(5) Analysis of Sentences(文の分析)を斎藤は「文の分解」(p. 24)と訳し、文構造の説明をしている。文はその主要な要素が主部と述部であり、またそれぞれに修飾語があるとして各品詞との関係を解説している。ここで斎藤はAdjuncts(付加詞)を「附属詞」(p. 24)と訳しているが、本文内容から現在の「修飾語」の意味で使われていると思われる。

(I.)「文の主格」は名詞か代名詞であるとしている。(II.)「主格(主語)の修飾語(附属詞)」(p. 24)は形容詞と形容詞句であること。(III.)述語動詞(賓辞)が取る目的語と補語は修飾語ではないことを解説している。(a) Object(目的語)を「目的格」(p. 25)と訳している。(b) Complement(補語)を「補助語」(p. 26)と訳している。また、不完全動詞が取る補語をNoun ComplementとAdjective Complementに分けて紹介している。注意という項目で目的語と補語の違い、副詞と補語の違いを解説している。(IV.)動詞の修飾語では修飾語という用語ではなく「附属詞」という用語で説明している。動詞の修飾語には副詞と副詞句があると説明している。Adverbial Phrase(副詞句)は「動詞の附属詞」としている(p. 27)。

3. 2 第2章「名詞」の構成

表8) Section 2 : Nouns

| | | | |
|------------------------------------|--|-----------------|-------------------|
| (1) Kinds of Nouns | Proper Nouns. | Common Nouns. | Collective Nouns. |
| | Material Nouns. | Abstract Nouns. | |
| (2) Grammatical Forms of the Noun. | Number. : Irregular Plurals. | | |
| | Case. : (I.) The Nominative Case ²⁰ . | | |
| | (II.) The Possessive Case. | | |
| | (III.) The Objective Case. | | |
| | Gender | | |

「名詞」の文法用語

(1) Kinds of Nouns(名詞の種類)については固有名詞と普通名詞を紹介している。固有名詞については以下のような3つのルールを挙げている。(pp. 30~1)

Rules.

- (I.) A Proper Noun always begins with a Capital Letter.
- (II.) Proper Nouns have no Plural Form.
- (III.) Proper Nouns require no Article.

そして、冠詞が付く場合の固有名詞の例外を6項目〔(1) 河川、(2) 海洋、(3) 船舶、(4) 公共物、(5) 書籍、新聞、雑誌名、(6) 複数固有名詞〕紹介している²²。

普通名詞にはSingular「単数」とPlural「複数」があると述べ(p. 33)、固有名詞と同様に5つのルールを挙げて普通名詞と冠詞について5ページ(pp. 32~6)にわたり解説している。

物質名詞については英文でルールが2つ挙げられている(p.40)。さらに冠詞の使い方について日本語で3項目にまとめている。

抽象名詞についても、やはり冠詞との関係を英文による2つのルールで説明している。また、抽象名詞は動詞、形容詞から派生するとしその例を16例挙げている。(例:add > addition, kind > kindness)

(2) Grammatical Forms of the Noun (名詞の文法形式)については、まず、数について、単数と複数を紹介している。また、複数形の作り方で、-sが付く場合とその発音、-esが付く場合の複数形の作り方に言及している。

Irregular Plurals (不規則名詞変化) (p.51) の訳はなく5つに分けて説明をしている。①母音を変化させて作る複数形(例:man > men)、②-enを語尾に付ける(ox > oxen)、③単複同形等、④2つの複数形による意味の違い(brothers / brethren)、⑤複数形だけの語(news)。

格については文中における名詞の他の語との関係を格と定義し、主格、目的格、所有格の3つを挙げている。

(1) The Nominative Case (主格)になるものには名詞、Predicate Nominative、Nominative of Addressの3つがあると説明している。Predicate Nominative (主格補語)、Nominative of Address (呼びかけの主格)には訳はない(pp.54~5)。

(II.) The Possessive Case (所有格) (p.55) では、“-’s”をApostrophe and s (アポストロフィ・エス)と説明しているがその訳はない。

(III.) The Objective Case (目的格)を、(a)動詞の目的語、(b)前置詞の目的語、(c)二重目的語の間接・直接目的語、(d)Adverbial Objectiveの4つに下位区分している。(c)Indirect Objectは「誰に」、Direct Object「何を」(p.58)と説明している。(d)に訳はない。さらに、Adverbial Objective (= Adverbial Object「副詞的目的語」)を9つに下位区分している。

「性」については、Masculine Gender「男性」、Feminine Gender「女性」、Common Gender「通性」、Neuter Gender「中性」の4つを紹介している(p.60~1)。名詞の性を区別する方法を3つ挙げている。①語(例:man / woman)、②中性名詞の性の区別(例:male cousin / female-cousin)、③男性名詞+接辞(例:emperor / empress)。現在の文法用語の訳との違いはNeuter Genderの「無性」だけである。

3. 3 第3章「代名詞」の構成

表9) Section 3 : Pronouns.

- | |
|--|
| <p>(1) Personal Pronouns. Grammatical Forms : I. Nominative Case II. Possessive Case III. Objective Case.</p> <p>(2) Demonstrative Pronouns. One</p> <p>(3) Interrogative Pronouns. (1) Who? (2) What? (3) Which?</p> <p>(4) Relative Pronouns. (1) Who (2) Which (3) That (4) What</p> |
|--|

「代名詞」の文法用語

(1) 人称代名詞 (Personal Pronouns) では第 1～3 人称の説明をしている。そして代名詞の人称、数、性、格の 4 変化のうち、人称、数、性は屈折による変化ではなく、語の変化と述べている。人称代名詞の文法的な形態 (Grammatical Forms) として格を 3 つに下位区分している。

I. 代名詞の主格には 2 つの用法がるとし、Nominative Case 「主格」と Predicate Nominative (述語主語、叙述主語) を挙げている (p.68)。後者の日本語訳はない。

II. Possessive Case (所有格) については、所有代名詞と Absolute Form (独立形) (p.69) を説明している。また、独立属格 (his books > his) にも言及はしているが、Absolute Form にその訳はない。

III. Objective Case (目的格) は動詞、前置詞、直接目的語の 3 があると説明している。

(2) Demonstrative Pronouns (指示代名詞) については、その Antecedent 「先行詞」 (p.72) について言及している。具体的には、不定指示代名詞の説明として “One” と “it” の比較をしている。また、Indefinite Demonstrative (不定指示代名詞) は「不定指摘代名詞」 (p.74) と訳している。SUMMARY には one はなく、this, that, etc. となっている。

(3) Interrogative Pronouns (疑問代名詞) については 3 つに下位区分している。(I) Who? の主格、目的格、所有格の変化と (2) What?, (3) Which? を説明している (pp.77～8)。

(4) Relative Pronouns (関係代名詞) については「先行詞を意味的に示すので代名詞、関係代名詞をはさむ 2 文を接続させる働きがある」 (p.80) と解説し (1) Who, (2) Which, (3) That, (4) What の項目別に解説をしている。

3. 4 第 4 章 「形容詞」の構成

表10) Section 4 : Adjectives.

| |
|---|
| (1) Kinds of Adjectives. Descriptive Adjectives: Qualifying, Material Adjective, Proper Adjective, Verbal Adjective Adjectives of Quantity: Numeral Adjective Pronominal Adjective: (I.) Demonstrative Adjectives (II.) Interrogative Adjectives (III.) Relative Adjectives Indefinite Demonstrative Adjective, Distributive Demonstratives (2) Comparison.: Formation, Use of Comparative, Use of Superlative |
|---|

「形容詞」の文法用語

(1) 形容詞の種類

Descriptive Adjectives (記述形容詞) を 4 つに分けているが、SUMMARY にある最初の Adjectives of Quality は本文にはなく本文では Qualifying または Descriptive Adjective という用語を使って説明している (p.88)。Material Adjective (物質形容詞) は物質名詞の形容詞用法と語尾に -en を付加して作る形容詞 (gold / golden) の二種類を説明している。Proper Adjective

(固有形容詞)は固有名詞から派生される形容詞 (Japan > Japanese) を例に解説している。その他に、国民、個人、国語の意味の用法を紹介している²⁴。Verbal Adjective (動詞的形容詞)は現在分詞、過去分詞の形容詞用法と説明している。日本語訳はなく「動詞の語尾に -ing または -ed, -t, -en をつけて作る」(p.90)と説明している。

Quantitative Adjectives は SUMMARY では3つに下位区分されているが、本文では Adjective of Quantity (量の形容詞)となっている。そして (a)「数の形容詞」(b)量「量の形容詞」(c)程度「程度の形容詞」という3つの項目に下位区分している。その具体的な例として8組の単語の解説がある²⁵。また、Adjectives of Number の項目は SUMMARY にはあるが本文にはなく、Numeral Adjectives (数詞)の項目が続き、Cardinal Numerals (基数)を「普通数詞」、Ordinal Numerals (序数詞)を「順序数詞」(p.100)と訳している。その用例を豊富に挙げて解説している。

Pronominal Adjectives (代名詞的形容詞)を指示形容詞、疑問代名詞、関係代名詞の3つとしている。指示形容詞については5つの指示詞の代名詞・形容詞用法を説明している²⁶。また、疑問形容詞では、what, which の代名詞・形容詞用法を説明している。そして、関係代名詞の解説のあとには単語の説明の形で事項を立てずに、Indefinite Demonstrative Adjective 「不定指摘形容詞」(p.105)、例: some, any と Distributive Demonstratives 「分配指摘形容詞」(p.107) (例: each, every, either) の解説がある²⁷。

(2) 比較

Degrees of Comparison (比較変化)を「比較の階級」と訳し、Positive Degree 「原級」、Comparative Degree 「比較級」、Superlative Degree 「最上級」という用語を使い解説をしている (pp.111~2)。

Formation (p.112)として比較級の作り方を (1)「単節の形容詞」、(2)「単節または2節の形容詞」、(3)「二節および多節の形容詞」、(4)「不規則比較級及び最上級」、の4つに分けて解説している。

Use of Comparative (p.115)では絶対比較級について言及しているが、絶対比較級という文法用語は使わずに「of the two」があるときは比較級に the をつけると説明している。

Use of the Superlative (p.115)では最上級には冠詞 the がつくことを述べているが「最上級」の訳はない。

3. 5 第5章「動詞」の構成

表11) Section 5 : Verbs.

- | |
|--|
| <p>(1) Kinds of Verbs.</p> <p>I. Transitive and Intransitive Verbs.:</p> <p> Passive Verbs. Dative Verbs: Indirect Object, Direct Object.</p> <p> Incomplete Verbs.: Nominative Complement.</p> <p>II. Auxiliary and Principal Verbs.: Auxiliary Verb, Principal Verb</p> <p>III. Verbs Finite and Not Finite.:</p> <p> Finite Verb,</p> <p> Verbs Not Finite: (a) Infinitive, (b) Participle, (c) Gerund</p> <p>(2) Grammatical Forms of the Verb.</p> <p> 1. Person and Number</p> |
|--|

2. Voice,
3. Tense:
 - 1) The Past Tense,
 - 2) The Future Tense
 - 3) The Perfect Tenses: (1) Present Perfect Tense, (2) Past Perfect Tense,
(3) Future Perfect Tense
 - 4) The Progressive Forms: Present, Past, Future
 - 5) The Progressive Perfect Tenses: (1) Progressive Present Perfect,
(2) Progressive Past Perfect, (3) Progressive Future Perfect
4. Interrogative and Negative Forms
5. Mood: I. Indicative Mood, II. Subjunctive Mood,
III. Conditional Mood, IV. Potential Mood,
V. Imperative Mood, VI. Infinitives,
VII. Participles, VIII. Gerund
6. Irregular Verbs

「動詞」の文法用語

(I.) 動詞の種類

(I.) Transitive and Intransitive Verbs (動詞の種類) では他動詞について2項目を説明をしている。第一に Passive Verbs (p. 117) は能動態と受動態をつくること、第二に Dative Verbs (与格動詞) は Indirect Object 「間接目的語格」と Direct Object 「直接目的語格」を取ることを説明している (p. 118)。なお、dative verb の日本語訳はないが、間接・直接目的語の訳は現在と同じである。

自動詞については、Incomplete Verb を「不完全働詞」と訳して説明をしている。また、それに続く名詞または形容詞を Nominative Complement (p. 120) と説明しているが、「主格補語」の訳語はない。

(II.) 動詞の文法的形式

Grammatical Forms of the Verb (動詞の文法的形式) について、斎藤は6つの項目(人称と数、態、時制、疑問・否定、法、不規則動詞)に分けて解説をしている。3. Tense (時制) の項目は15ページ (pp. 131~46)、4. Mood (法) は14ページ (pp. 150~164) にわたっている。その他の項目は1ページから8ページの長さである。項目によりそれぞれ分量が偏っている。以下 SUMMARY と異なる分類についてのみ言及する。

4. Interrogative and Negative Forms はそれぞれ「疑問文」「否定文」(p. 146) と訳されている。また、それぞれの現在形と過去形を表 (p. 147) にしてまとめている。

5. Mood (法) については8つの項目に分類し説明している。SUMMARY では定型 (Finite) と非定型 (Non Finite) に分けているが、本文ではその区別はなく、全ての項目が並列されている。

6. Irregular Verbs (不規則変化動詞) を斎藤は「不規則働詞」(p. 164) と訳している。原形、過去形、過去分詞 (Root-Form, Past Tense, Past Participle) の3つの形を動詞の「主要なる形」(Principal Parts) と呼んでいる。なお、Root-Form (p. 165) には訳語がない。また、現在分詞については、「原形に~ing を付けるもの」と説明、「主要なる形」と区別している。

しかし、助動詞と結合できるものとしては原形と2つの分詞を挙げている。また、助動詞結合の表 (p. 166) では3種類の助動詞 (Do, Have, Be) と本動詞 (Principal Verb) との関係をまとめている。最後に不規則変化動詞を Group A から Group Q までの16項目に分けてある²⁸。

3. 6 第6章「副詞」の構成

副詞については SUMMARY がないので目次との比較になる。本文の構成と比較して目次で扱われていない文法項目について考察する。本文の構成は以下の通りである。

表12) Section 6 : Adverbs.

| |
|--|
| <p>(1) Kinds of Adverbs</p> <p>I. Simple Adverb</p> <p>II. Pronominal Adverb</p> <p>(I.) Demonstrative Adverbs,</p> <p>(II.) Interrogative Adverbs,</p> <p>(III.) Relative Adverbs</p> <p>(a) Time, (b) Place, (c) Quantity or Degree, (d) Quantity or Manner,</p> <p>(e) Reason or Cause, (f) Modal Adverbs</p> <p>(2) Uses of Adverbs.: Adverbs of Time, Adverbs of Degree, Adverbs of Quality or Manner.</p> <p>(3) Comparison of Adverbs.: Irregular Adverbs</p> |
|--|

「副詞」の文法用語

(1) Kinds of Adverbs (副詞の種類) では副詞を2つに分類している。I. Simple Adverb (単純副詞) を「普通の副詞」と訳している。そして II. Pronominal Adverb (代名詞的副詞) は「代名詞と同じ形を持つ副詞」と説明し3つに分類している (p.172)。(I.) Demonstrate Adverbs (指示副詞) を「指摘副詞」と訳している。(II.) Interrogative Adverbs は「疑問副詞」、(III.) Relative Adverbs は「関係副詞」で現在と同じ文法用語である (pp. 172~3)。また先行詞を持つ where と when を Conjunctive Adverbs 「接続副詞」 (p. 173) と訳している。

次に副詞を意味的に (a) Time (時)、(b) Place (場所)、(c) Quantity of Degree (量・程度)、(d) Quantity of Manner (性質・仕様)、(e) Reason or Cause (理由・原因) の5つに下位区分し (pp. 174~5)、それぞれ単純副詞と代名詞的副詞の例を挙げている。用語は現在と同じである。

(f) Modal Adverbs (法副詞) は「事実、疑念の意味を表す」 (p.175) と説明し、用語の和訳はない。また、これは (f) となっていて前項目の意味的分類に続いているようになっているが、これは独立した項目と考えた方がよい。

(2) Uses of Adverbs (副詞の用法) については、Adverbs of time (時の副詞) を5つ (ever, never, seldom, often, always) 挙げ、文中での位置について言及している。Adverbs of Degree を「程度の副詞」 (p. 178) と訳し、その例として very は動詞、形容詞、副詞を形容すると紹介し、また much は比較・最上級にも用いられると説明している。Adverbs of Quality or Manner は Qualifying Adjective に -ly がついたもので「性質または様態を表す副詞」と説明している (p. 179)。副詞と形容詞の違いを説明している。

(3) Comparison of Adverbs (副詞の比較変化) は比較級の作り方と Irregular Adverbs 「不規則副詞」 (p. 181) と訳し簡単に説明している。

3. 7 第7章「前置詞」の構成と文法用語

表13) Section 7 : Prepositions.

Use of Preposition

- (1) Prepositions of Time.
- (2) Prepositions of Places.

Use of Preposition (前置詞の使い方) では項目を立てずに、前置詞の働き・種類について概観をしている。前置詞を45個例示している。さらに、前置詞の文中の位置、前置詞と副詞の違い、句動詞などについて言及している。Verbal Phrase を「熟語働詞」(p.184) と訳しているが、これは“get along”などの例から現在の「句動詞」と考えられる。

前置詞の用法として、Time「時」とPlace「場所」(p.185) について説明している。

(1) Prepositions of Time (時を表す前置詞) は、4組の前置詞(at と in, in と on, for と during, from と since) について比較しながら説明している。

(2) Preposition so Place (場所を表す前置詞) は6組の前置詞(in, at / in, into out of / above, over, on / over, under / on, over / among, between) について簡素の説明しているだけである。この章は練習問題も含め全7ページだけである。

3. 8 第8章「接続詞」の構成と文法用語

表14) Section 8 : Conjunctions.

- I. Co-ordinate Conjunction
- II. Subordinate Conjunction

(I.) Co-ordinate Conjunction (等位接続詞) については7つ例を挙げている³⁰。(II.) Subordinate Conjunction (従属接続詞) については「附属文」(Subordinate or Dependent Clause) を「本文」(Principal Clause) に接続する働きと説明している (p.192)。また、Correlative Conjunction (相関接続詞) を「連関接続詞」(p.193) と訳しその例を13例(not only ~ but also, so ~ that など) 挙げている。

また、相関接続詞は等位接続詞に属するものと従属接続詞に属するものがある。ここでは章立てとして従属接続詞の一部のようにになっている。やはり、独立した項目としたほうがよいであろう。

4 まとめ

以上のように『英文法初歩』にある文法用語を目次、SUMMARYを参考にしてまとめた。目次とSUMMARYでは扱っていない文法用語については本稿の3章で新しい「目次」と「SUMMARY」にあたる「本文の構成」を作成した。その過程で『英文法初歩』の本文の構成を掴むことができたと考える。その構成は現在の学校文法の原型をなすことが伺われる。しかし、全8章であるがそれぞれの章のページ配分はかなり不均衡である。後半部の第7章の前置詞は練習問題を入れても8ページだけである。また、第8章の接続詞は5ページであった。一方、第5章の動詞は46ページある。

文法用語に関しては、本稿で扱えきれなかった文法事項もまだ多くある。それは見出し語にはなっていないが、文法事項の説明の中で使われる用語である。また、文法用語の下位区分に使用された「文法項目」も今回は扱えなかった。今後の研究課題としたい。

本稿で扱った文法用語に関してだけでも、今後の検討を必要とすることがある。これまでの斎藤の著書はすべて英語で書かれていたので文法用語を和訳する必要はなかった。しかし、日本語で書かれた文法書には文法用語の和訳が必要となる。本稿での考察から斎藤が示した文法用語の表記方法は以下のようにまとめることができる。

1. 和訳した文法用語
2. 英語だけの表記
3. 英語の用語を日本語で説明

和訳した用語は現在と同じ用語と現在とは違う用語に分類できる。また英語の用語についても現在の表記と違うものもある。今後は各用語の下位区分の項目も含め『英文法初歩』で扱われている全ての文法用語の一覧表の作成を試みるものである。そしてそれぞれの用語の意味と訳を現在の文法用語と比較検討したい。

また、文法用語を考察することにより扱う文法項目の現在との「割り振り」の違いにも言及したい。本稿での『英文法初歩』の文法項目の分析により、斎藤の文法項目が現在の学校文法の原形ともいえる構成であることが解明できた。しかし動詞について言えば46ページある内容がこれ以降の文法学者によって細分化されていく過程を検証することも今後の課題とする。

参考文献

- 大村喜吉 (1960) 『斎藤秀三郎伝—その生涯と業績—』 吾妻書房
 北山長貴 (2010) 「斎藤秀三郎著『英文法初歩』について (1)」 山形県立米沢女子短期大学付属生活文化研究所報告 第37号 平成22年3月 pp. 35~52.
 斎藤秀三郎 (1900) 『英文法初歩』 “English Grammar for Beginners.” 興文社 (明治34年3月1日発行 明治34年3月1日 文部省検定済 中学校教科用書 7)
 『新英語学辞典』 (1982) 研究社
 高橋健吉 (1978) 『文明開化の英語』 藤森書店
 Huddleston, Rodney (1984) *Introduction to the Grammar of English*. Cambridge : CUP.

註

- ¹ 英語の目次は北山 (2010) (p. 38~9) で紹介しているので本稿では省略する。
- ² 『英文法解説』 (江川) の第1章名詞はII, 名詞の性、III, 名詞の数、IV, 名詞の格となっている。(p. v)
- ³ 不定代名詞の取り扱いについても今後の研究課題としたい。不定代名詞の文法解説は現在ではその単語についてその普通は名詞用法、形容詞用法、副詞用法を記述するのが一般的である。斎藤は「形容詞」の章でこれを扱っているが、その後の文法記述項目の変遷も興味深い。
- ⁴ 『新英語学辞典』の adjective の項に訳語があるが、これは Curme (1935) である。『英文法初歩』は1900年の出版であり、斎藤と Curme が意図する「記述形容詞」は同じかどうか今後の検討課題としたい。
- ⁵ 形容詞に関してそれぞれの文法用語の意味と由来も今後の検討課題とする。
- ⁶ 文法項目の細分化の過程も今後の課題となる。
- ⁷ イエスベルセン、MEGは1909~49年である。
- ⁸ 前置詞に関しては “*Monographs on Prepositions*” (1904) がある。
- ⁹ 北山 (2010) p. 42.
- ¹⁰ 5章の SUMMARY は表を含んでいる。1章には SUMMARY という項目はないが、「表による文法事項のま

とめ」も SUMMARY として扱えるかどうかは今後の検討課題としたい。

¹¹ 英語教育において名詞の性、特に通性、中性の区別は現在扱われていない。動詞の屈折変化に関してラテン語の変化表と簡略化した英語の変化表についての Huddleston (1984) pp. 77~83. の言及が興味深い。

¹² as が脱落している。IV. も同様である。

¹³ 北山 (2010) p. 42.

¹⁴ 内容説明は後述の3. 4を参照。

¹⁵ Curme (1935) の Numeral Adjective は「数形容詞」と訳されている。用語とその意味において斎藤の辞典の検証も今後の課題としたい。

¹⁶ 動詞については目次の (1) 動詞の種類の SUMMARY はない。

¹⁷ 「不定時制」は Sweet の用語。

¹⁸ 附属文の中に現れるので「附属法」としている。(p. 151)

¹⁹ 仮定法の法助動詞、可能仮定法 (potential subjunctive) の法助動詞。

²⁰ (1) の誤植か。

²¹ 冠詞と名詞の関係を斎藤は重要視していたためこのようなルールをこの章に限りつけているのだろうか。本稿はすべての Rules を原稿枚数の関係で掲載できない。Rules についても今後の検討課題としたい。

²² 現在の文法書とほぼ変わらない。江川 (1964) では地名・国名と群島・山脈名が加わった 8 つに分類。

²³ Adverbial Object の現在の文法書での扱いとの比較は今後の課題となる。

²⁴ The Japanese are a brave people. / I am a Japanese. / Japanese is a difficult language.

²⁵ many, few / much, little / great, little / few, a few / little, a little / some, any / no, none / all を取り上げている。(p. 91~8)

²⁶ this, that, same, such, other

²⁷ これらの語の文法説明は不定代名詞の項目で扱われている。そして代名詞用法、形容詞用法、副詞用法と解説される。

²⁸ このグループ分けについても今後の検討課題とする。

²⁹ 前置詞の解説においては moment of time, period of time (p. 185), duration, continuance (p. 186) などの文法説明が見られる、下位区分の項目として使われる用語も今後の検討課題とする。

³⁰ and, or, or else, nor, but, so, therefore